

## 開会挨拶

京都大学総長 山極 壽一



皆さん、おはようございます。きょうは晴天で本当に、これはわくわくするような日になりました。たくさんの皆さんがお集まりいただきまして、とてもありがたく思っております。

私は、総長になる前に、40年ぐらい、ずっとアフリカのジャングルで、暗く湿った環境でゴリラを追っかけてきましたから、こういう晴天の日を迎えると、わくわくするんですね。なるべく、きょうは、わくわくするような話を聞きたいものだと思っております。

さて、本学は1897年の創設以来、自由の学風のもと、対話を根幹とした自主独立と創造の精神を涵養し、多元的な課題の解決に挑戦して、地球社会の調和ある共存に貢献すべく、質の高い高等教育と先端的な学術研究を推進してまいりました。

一方、地球環境の悪化や民族間、宗教間の対立の激化、国際資源競争や金融危機、社会格差や生活の不安などの20世紀の課題は、解決されないまま、21世紀に持ち越され、一層問題が大きくなっています。世界の情勢と我が国を取り巻く状況は急速に変化していると感じます。

このような変化の極めて早い時代だからこそ、地球社会の調和と共存のためには、真理の探究に基づいて、これまでの常識を塗り替えるような新しい発想と、その理論構築が学術教育機関の一翼を担う京都大学の重要な役目であると考えている次第でございます。

一昨年度、本学は文部科学大臣より指定国立大学として指定されました。指定国立大学というのは、世界最高水準の教育研究活動の展開が可能であると、その実力と潜在能力を認められた国立大学のことでございます。

京都大学は日本を代表する大学として、国内の競争環境の枠組みから出て、国際的な競争環境の中で、世界の有力大学と伍していくことを求められ、社会や経済の発展に貢献する取り組みの具体的な成果を積極的に発信し、国立大学改革の推進役として役割を果たすことが期待されています。

京都大学は既に多様な知の集合体として新しい学問を創出してまいりましたが、これを機に本学は、これまでの多様な知の蓄積を生かし、国公私立大学の垣根を越えて社会や世界に開かれた窓となって、新しい知の創造を呼びかけてまいります。

さて、京都大学には10の学部、18の大学院に加えまして、理学、工学、医学、生物学、人文・社会科学までを網羅する22の附置研究所とセンターがございます。これらの附置研究所と研究センターでは、国内外の学術研究をリードする先端的・学際的・基盤的課題に取り組み、新たな知を創出する研究活動を行っておりまして、これまでノーベル賞やフィール

ズ賞を幾つも輩出しております。

平成27年4月には、本学の将来構想、「WINDOW構想」の柱の一つである「独創的な先端的研究、融合研究の推進による学術社会のイノベーションの創出」のもと、附置研究所と研究センターの強み、特色をさらに伸ばすとともに、異なる視点を持つ研究者の知を結集させ、異分野融合、新分野創生の促進を図ることを目指して、京都大学研究連携基盤を設置しました。

「WINDOW構想」というのは、私が総長になってから、大学は社会や世界に開かれた窓であるべきだということで、「窓」すなわち「WINDOW」という名前をつけて京都大学の目指す目標を設定したものです。

WINDOWの一つ一つのアルファベットを取って、WはWild and Wise、野生的で賢い学生を育てましようということで、IはInternational and Innovative、NはNatural and Noble、DはDiverse and Dynamic、OはOriginal and Optimistic、そして最後のWはWomen and the Worldです。

京都大学は、女子学生の比率が非常に低いので、22%しかありませんので、女性がどんどん入ってきてくれて、活躍してほしいと思っております。ここにも女性の方、学生のお母さんたちもいらっしゃると思いますので、ぜひ娘さんたちに京都大学に入るように勧めたいと思います。

本日のシンポジウムは、京都大学の附置研究所・センターが相互連携のもとに学際的な共同研究を推進するとともに、研究成果の発信のために、これまで13回にわたり京都以外の中核都市で毎年シンポジウムを開催してきた、その一環でございます。

本シンポジウムの企画の目的は、次の世を明るくするために、京都大学の研究者が語りかけることであります。私は総長に就任以来、「おもしろい研究をやりましよう」「おもしろい対話をしましよう」ということを呼びかけてまいりました。「おもしろい」というのは、自分で面白がっているだけではなくて、相手を面白がらせ、そして、「それ、ええやんか、わしも協力するで」というふうに言ってもらうこと、そういう内容が必要なわけです。

きょうは皆さん、よく発表を聞いていただいて、おもしろくないものにはバツをつけていただきたい。おもしろいものには、きちんと○をつけて、そして疑問があれば、どんどんアンケート用紙に書いていただいて、語りかけていただきたいと思っております。

私たち、研究者は、社会に対するリスペクトを持って、この地球という惑星を希望の地にできると信じて努力を続けてまいります。その姿を最もよく表しているのは、この研究所・研究センターの研究者たち、世界の最先端の研究を担っている方々でございます。

これから次世代を担う若者との交流の場としても最適な機会をいただいたと考えておりますので、京都からの挑戦として、京大曼荼羅に、ぜひお耳を傾けていただければ幸いです。本日は、どうぞよろしく申し上げます。